



発行所 中蒲原郡 卷町公民館 編集人 保刈 郡司 印刷所 昭和時報社

### 子供の日と児童福祉について

児童委員 高田 弥雄司

「あの子もこの子もみんなの子」

五月五日は子供の日で、そして児童福祉週間が始まります。敗戦前まで日本では子供は親の隷属物で、親の爲めに育られ親の爲めに教育され親の爲めに職業に就くといふように、凡てが親本位で悪く言へば子は親の奴隷的存在に過ぎないのです。

然しながら、かゝる考へ方が誤つてゐることは人間の基本的人權を無視してゐるからでありまして、人間個人個人の人権が尊重されなくては社会共同の福祉が存在し得る筈がありません。子供は親の生んだ子ですけれども、此の子が間もなく大きくなれば、国家社会を構成する一員となるのです。即ち子供は親の子であると同時に国家の子社会の子「みんなの子」なのであります。従つて私共は親連と力を協せて子供を立派に育て上げなければなりません。子供が立派に育つて行くことは、將來この子供達が何ものかを社会にマラスして、共同の福祉が確立されるからであります。

(国及び地方公共団体は児童の

保護者とともに児童を心身ともに健やかに育成する責任を負ふ児童福祉法第二條)

子供の問題が大きく取り上げられたのは昭和二十二年十二月児童福祉法といふ法律が出来てからであり、敗戦の日本にこんな立派な法律が出来たことは日本が本當に民主的平和的そして福祉的な国にならうとしてゐる大きな努力の現れでありませう。

此の法律では十八歳から下を全部児童と呼んで、此の児童のうち満一才以下を乳児、二才から就学までを幼児、それ以上を少年と言つてをります。そしてすべての国民は児童が心身に健全に生まれ且つ育成されるよう努力しなければならぬのであります。又児童はひとしくその生活を保障され愛護されることと規定されてあります。

#### (法第一條)

これで永い間親の私有物だった子供の身分と権利がハッキリと確立されたのです。一例を申します。親が貧しくて子供に食べさせないでゐるとか又学校へ上げずに子守をさせるとか

或は親の爲めに賣られて行くとか、乞食や芸人にされるとかすべてこうした場合今迄は「俺の子は俺がすぎだ」と他の干渉を許さなかつたのが、今は国や町村がすぐ救済に乗り出す責任があると同時に、児童は其の保護を受ける権利を有つてゐるのであります。

又悪癖、愛質、精神薄弱で普通の子供の仲間になれない児童の場合などはそれぞれ適當な施設に入れることが出来るのです。現在我が国では児童福祉の爲めにいろいろの施設を設けてをりますが、その名稱だけでも乳児院、母子寮、保育所、養護院、教護院等々、これらはいづれも児童福祉法の命ずるところに依り、児童の保護育成に欠くべからざる役目を果してゐるのであります。

児童が平素絶えざる保護者の温かい指導と監督を必要とすることは申す迄もありませんが、不幸にして保護者が適當でない時或は誤つた指導や虐待をしてゐるとき、若くは保護者が欠けてゐるような場合は、児童委員(民生委員兼務)児童福祉司、児童相談所などといふ機関がいつでも保護者や児童のよき相談相手となり子供の仕合せになる方法を講ずることになつて居ります。

私共の国では今迄餘りにもみじめな子供が多すぎました。これからはさういふ子供が一人でもなくなりまうようにして、みな健康に明るくすくすくと育つて行きますよう皆さんと共に期待致しましょう。

### 町會だより

- 四月十一日 厚生水道委員会 共同住宅へ水道の敷設について検討協議
- 二、衛生週間中の実施事項につき
- 四月十七日 教育委員会
- 一、中学校 庭に松、ポプラを移植することに ついて協議、現地調査を行ふ
- 四月二十六日 厚生水道委員会
- 一、保育所 工事竣工式について
- 二、保育所 運営條例について

### 國保だより

西蒲原郡赤ちやん大会に出場する巻町代表者が決定しました。

男子の部	一等 赤サビ 幸田久一さん 二男 博ちやん
二等 六区	石山新彌さん 長男 久男ちやん
三等 六区	眞島 博さん 長男 秀夫ちやん
四等 六区	高河慶二さん 四男 清ちやん
五等 六区	大澤作二さん 長男 慶作ちやん
女子の部	一等 十三区 西村久家さん 長女 由美子ちやん
二等 十区	田辺博数さん 長女 佐和子ちやん
三等 六区	樋浦辰一さん 次女 信子ちやん
四等 六区	石山重三郎さん 次女 裕子ちやん
五等 五区	阿部藤松さん 長女 道子ちやん

- 長沼甲午郎 桑原 寛 (公益を代表する委員)
- 沢栗健一郎 大原 政治 横田 孫平
- 三、専決処分報告承認を求め る件
- (-)露店市場管理條例一部正改につき
- (-)職員の仕事 給及家族手当につき
- 四月二十七日 警察消防委員会 消防員並びに消防団役員募集
- 一、全町の防火用水利につき
- 各区毎に検討を加い、消火栓の増設、江筋の制水閘について。
- 二、大字赤サビ ポンプの車輪のとりかひ二分園ホース十本購入其の他ホース修繕について。
- 三、大字堀山 ポンプ置場の位置等について。
- 四、非常の場合西川岸よりポンプを下す場所、数ヶ所について実地調査す。

- 四月二十六日 四月定例会 開会出席議員二十名
- 一、巻町税 賦課徴収條例改正條例の設定について
- 二、巻町国民健康保険運営協議会委員(一年委員の改選)の委嘱について次の通り議決した。
- (-)被保険者を代表する委員 村山卯右工門 榎辺 寅藏 稻田幸二郎
- (-)医師を代表する委員

「黨か人か」 葉書回答

参議院の改選も迫りました。久しぶりの選挙なので、いろいろお考えのことと存じます。今月は参議院選挙にそなえて、

四党も考え人を中心とする。伊藤 太郎、石田 辰司、三党を主とし人を中心とする。長島 三郎、七社会党。四党も考え人を中心とする。



P.T.A.について

土田 穂波

P.T.A.の会合に出席させて頂く様になつて、漸く今の新しい教育と云ふ事がわかりかけ、

招魂社の祭

笛木 甚一郎

五月八日の招魂社の祭が来た。嘗ての時代の英雄であり、護国の神と言われた戦死者も、今は軍閥の犠牲となつた患者と言はれる哀れなるもののお祭りである。

スポーツ

※近郷排球大会終る

巻高校排球部主催の近郷排球大会は、好天に恵まれて四月十六日、巻高校コートに於て八チームの参加を以て午前九時から熱戦の幕が繰り広げられ、日東紡織始業部も及び男子の部は巻高男子F部、女子の部は巻高女子F部がそれぞれ優勝した。

※西藩チアム、縣駅傳大会に二連覇を遂す

本縣マラソン競技の最高峯を仰ぐ長岡一、新潟問暇傳競足は四月二十九日舉行されたが昨年の記録を更新し、四時間十九分二十秒の新記録を樹立して西藩チアム（巻町佐藤正重君、トリス、コリスを走破）は二連覇を遂げた。

農家だより

農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより

農家だより

農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより

新潟地方婦人問題会議に列席して

中野 ヨシ

昭和二十一年四月十日日本婦人が始めて国会議員を選挙した日でした。それが五度目の春を迎え、婦人の地位はどれだけ向上したのでしょうか。

先般労働省主催のもとに、家庭から職場から封建性をなくしようとする。権利と義務を知らしめよう。と云う二つの目標をかかげて婦人の自覚を促すと共に、男性の認識を深めようとする週間で開催された新潟地方婦人問題会議が四月十日新潟市イタリヤ軒に於て、各戸職場の代表約三十名で、それぞれ立場より意見発表を行いました。

農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより 農家だより

婦人會だより

第二回婦人週間の四月十日に縣社会教育委員大江一星氏を農協樓上に迎い「婦人と政治」の講演会を行った。内容は日本の政治のありかた、つまり立憲政治は国会に行政権は内閣に、司法権は最高裁判所にあり、その三者がいづれも密接な関係を持つて政治を運営してあることと説き、くだいては議員と参議員によつて出来ている日本の二院制国会の現状と、それに引きついで参政権を得た婦人が、どの様な人を選ばか色々なモーアの中に結局議員は政界を選び、参議員は人本位に行きべきだとしてより以上婦人には政治的関心を持つていただきたいと結論づけられた。

公民館だより

◎第一回「ものを聴く会」

四月十七日夜、公民館に於て、講師町会議長小林十四三氏、聴く人幸田久作氏、青年團長長島寛治良氏、今年成年になられた大岩昌子氏、婦人会横田ふじ氏都合により欠席、司会池上治郎氏。

五月行事予定

- 一日 海紅俳句会
一日 巻地区協議会(客岡村)
五日 こどもの日
五日 ナイトとおどりの夕
七日 赤ちやん大会表彰式
七日 選挙審議会
七日 電音開(邦樂)
七日 電音開(邦樂)
十日 育児相談日
中旬 もの聴く会
中旬 もの聴く会
「社会教育法」公民館について(予定)
十五日 海紅俳句会
下旬 俳句会(予定)
下旬 各党立会演説(予定)
毎週水曜日 山ピコ会練習日
毎週日曜日 文庫貸出し

俳句

竹野 福一、子と農

春の唄に 乳房露光ぐ 子と農夫
君思ふ 氣配は宙の東風にトぐ
雑踏の埃りの中の金魚店
競輪の喧嘩行くと花袋り

黄昏の花菜が映ゆる村と村
牛の目のじろりと花菜咲きほぐ

學校欄

子供のばすもの

高橋 弘

春祭の子どもたちの姿をながめてみよう。
・火事、火事と町でも村でもきもを冷やしているのに、カイロの棒に火をつけてふりまわして面白がつている。
・本町通りを走りながら、人の顔へつき出し、おどろかせている。

毎年、それもお祭前に注意しても注意してもなかなかやみそらもない。だれも、みてみぬふりをして、とがめようとしなない。
子どもたちは自分勝手のおこないが、よいかわるいかをさき考えようとしなない。こんな子どもたちが大きくなつたら、あの熱海市の大火の原因になつた、ガソリンのそばに平氣でたばこをすう大人の姿を、色々な形に変えてくりかえすにちがいない。
「しつけ」と近頃とやかくいつてるけれど、問題はもつと身近にあるようだ。次代の日本を背負う子どもたちを正しくのばすためには、
・特定の人だけにまかておくのではなく
・組織だけにたよるのでなく
・町の人みんなが、いつ、どこにでも力を合わせ、子どもたちを見守つてやらなければならぬ。
(巻小学校)

讀書隨想

「裸者と死者」

人の寢息と装具の香でむんむんする船艙の片隅で、彼等アメリカの兵隊たちも明日への不安と焦慮に身も心も固くしながら、ばくちをやり狼狽をし、そして残して来た妻への不信に胸をしめつけられていた。(われわれもまたそうだった、ただ幸な事にわれわれはわれわれの妻を信ずることができた)身の近くに落す砲弾に彼等も穴の中に顔をつきこんだりし出してみたり、そして大便をもらしながら走り廻つた。(われわれもまたそうだった、ただわれわれは小便位はもらしたかも知れぬが、大便はしなかつた)彼等アメリカの兵隊も両手をあげて降参して来た日本の兵隊に煙草をやり菓子をやし、そしてやにわにその頭に拳銃の弾をうちこんだ(われわれもそんなことをした)であらう、ただ拳銃の代りにしばしば日本刀と銃剣を用いたかも知れない)密林の中どころがつかえている日本兵の屍を足でけつころがしながら、彼等も「記念品」を探し、そのうちの一人は金歯をとるためにその顔を銃尾でなぐりこわした(われわれも記念品を探した、そしてもし金歯をもつている屍があつたら或はやつげりそうする人もあつたかも知れない)
戦争とは、戦場とはこんなものだ。
もし後に尙戦争があつた方がよいと考へていられる方があつたら

本当ではないと思ふが、日本の青年の六割はあつた方がよいと考へていると誰かが言つたのか或は書いたのかして居るのを感じて居る。私は地に頼ずかんばかりの思ひでお願ひする。何卒この本を讀んで下さい。そして青白い曳光弾の下、クロフト軍曹の機銃で河のまん中で倒れて流されてゆく日本の兵隊の姿をみ下さい。密林の中で本籍も名前も知られないまま、に地にも化してゆく、若い日本の兵隊の姿を考へてみて下さい。それらは或る精銳二師團の兵隊であるかも知れないのだ。どんなことがあつてもわれわれは再びこんな馬鹿げた氣遣ひの眞似したくない、そんな仲間に入るとはもう眞平だ、いやいや世界からもうこんなことは完全になくしてしまいたい。この一冊を讀んだ人たちはみんなきつときつとそう思ふにちがなないと私はそう信じてこの本をおすすめする。(齋藤 順作)

卷町海紅俳句會

角田山麓吟行句抄

秀

竹の秋のこの道いづこいかに人行く皆上着をぬいで
山頂空ありわたくし花すみれとあり
白根 喜作
山吹はどこかで咲いてゐるやら山みちのどろ／＼石
白根 乱水
白根 光明樹

日々焦燥のわれらに松葉敷く山の小徑がありて 翠城
けふいちにちの春の日をいうわれらに沼の水耀き 順作
松伐つて山に菜を植えあわれ菜の花 法雄
あけびの芽咬めばにがくばつかり浮き出た山の水面 杜松
山はうれし踏の幼葉の丸く小さく 孝平
この湖に菱の実採れる事など知り春の日泳いでゐる水鳥 一太浪
葦咲く青年かたまつて来る渡輪の日がくる 曙山
雑木春山のみち惘りなく来る少女の笑顔 金剛
けふのわれにして山のこぶしの花のしろきをわがひ

二千冊突破

新入庫案内

世界文学全集 著者名
赤と黒 エミリア・ブロンテ
嵐ヶ丘 シュトルム集
ポオ集 エミリア・ブロンテ
アンデルセン集 アンデルセン
ハイネ集 ハイネ
郷土集 パールバツク
血の宣言上下巻 シンクレア・レイス
若草物語上下巻 オルコット
親と教師に語る ホーマー・レイン

にんじん ルナル
チボー家の人々全十一巻 ガール作
郷愁 ヘルマン・ヘッセ
一九八四年 ジョージ・オーウェル
松葉牡丹 林 芙美子
狂つた季節 廣津 和郎
曉の合唱 石坂洋次郎
岡牛 井上 清
石中先生行狀記二部 石坂洋次郎
防風林 岸田 國士
宗方姉妹 大佛 次郎
宮沢賢治詩集 宮沢 賢治
現代長編小説全集 尾崎 士郎
石坂洋次郎 石坂洋次郎
林 房雄
平林たい子 鈴木 直
滑川 道夫
考へる子供たち 高森 敏夫
宗教と人生 帆足理一郎
日本の国ができるまで 高橋 礪一
家庭の法律百科 穂積 重遠
理解ある町民の皆嫌からの多くの寄贈圖書を蔵き厚く御礼申し上げます。紙数の關係上次号にて発表致します。悪からず。

編集後記

初夏の吹息とともに田植が迫りました。農家のみなさん準備は出来ましたでしょうか。お忙しい事と思ひます。
来月四日は私たちが代表する参議院議員の選挙が行われます。本当に各日の自由意志の下にこの人ならばと思ふ人を選び、国会に送りましょう。この意味で討論会を行い、又各党立会演説会を計画致しておきます。
火事は相互の不注意からです。火の元には充分注意致しなう。